

奨励賞

おじいちゃんがおばけになったわけ

汐入東小学校 五年 辻河 未羽

柳田先生、こんにちは。私は、おじいちゃんがおばけになったわけという絵本を読みました。柳田先生はお読みになりましたか。

この本の内容は、ある日死んだはずのおじいちゃんが、主人公エリックのところへ現れます。忘れ物があったはずなのに思い出せないおじいちゃんとエリックが忘れ物を探しにいくというお話です。

私が心に残ったのは、おじいちゃんの忘れ物です。それは物ではなく

「さよなら」。

という一番大切なエリックへの言葉でした。私は、この

シーンを読んだとき涙ができました。私がエリックだったとしたら涙があふれ、だきつくことができなくても、おじいちゃんにだきつきます。柳田先生でしたらどうなさいますか。私はおじいちゃんはまだ亡くなっていないですし、今は天国にいるおばあちゃんのおそう式でも三才の時だったのでそんなに覚えていません。けれど私がエリックだったら泣いて泣いてとにかく涙がでると思います。エリックも、おじいちゃんの忘れ物を聞いた時、涙があふれてきたと書いてありました。これは、私の勝手な想像ですがこんな心に残る忘れ物を聞いたら世界中が、泣くのではないのでしょうか。柳田先生は、どう思いますか。私はそう思っています。

そして私が一番伝えたかった事とは、この本は相手の気持ちになることができ、温かい気持ちになる事ができる本だと思います。また本はとても人の心を動かし、いろ

いろいろなことを想い起こさせて、温かい気持ちにしてくれるすばらしい物だと私は思います。柳田先生もしもお読みになられていないのならお読みになつてください。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

おばけというと、ふつうは怖いと感じるでしょう。でも、この絵本のおばけは、ちょっと違うんですね。亡くなったおじいちゃんが少年のエリックの前に現われるのですが、怖くないどころか、とても優しいんですね。

もうあの世に行ってしまったはずのおじいちゃんが、どうしてまた戻ってきたのか。それは「忘れ物」をしたので、探さなければと思ったから。

でも、おじいちゃんは何を忘れたのか、はじめはわからない。とうとうわかったのは、忘れたのは大事な言葉だったのです。その言葉とは、エリックとお別れするときの、

「さようなら」

という大切な言葉でした。現実にはそんなことは起こらないのだけれど、絵本で語られると、不自然だという印象は受けませんね。

辻河さんは、忘れ物がその言葉だったとわかった場面で、おじいちゃんの優しさに感動して涙を流したエリックの感情に、自分の感情が引き込まれて重なり合い、自分も涙を流し、

「こんな心に残る忘れ物を聞いたら世界中が、涙するのではないのでしょうか」とまで書いています。

しかも、辻河さんはさらに踏み込んで、私（柳田）に一番伝えたかった事として、「この本は相手の気持ちになることができ、温かい気持ちになる事ができる本だと思います」と書いています。すばらしい読み方だと思います。